

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている, C : あまりできていない, D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標など)
笑顔いっぱい 元気な子	きづいて ためして もっとやろう	子どもがじっくりと遊ぶような場と時間が十分にある	子どもがじっくりと遊ぶことができるように、子どもの姿を見取り、遊びに必要な物、場を用意することができた。しかし、時として遊び時間を区切ることもあったため、子どもの遊びの様子や発達に応じて、遊び時間をもっとフレキシブルなため対応していく必要があった	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回目の評議員会でも自然物などの素材などが豊富にあり、先生方が子ども達のために一生懸命準備している姿がうかがえる。また、子ども達を大切に保育している姿も感じる。</li> <li>・『遊びマップ』については更新が滞っていると感じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『遊びのマップ』を活用し、一目で子どもがどこでどのように遊んでいるかわかる状態で月案の振り返りをしていく。それによって遊びの場や使う物の重なりが分かり、使用したいものが使用できる状態ができてくる</li> <li>・教材提供の前に必ず子どもの姿をふまえた教材研究を行う</li> <li>・配慮すべきところはどこかを知るために、子どもがどんな時にどんな行動をするのかを記録にとり検証していく</li> </ul>
		子ども達が遊びや生活の中で、見て、気づいて、試して、もっとやってみようとするような、素材や教材が用意されている	子どもが使用する素材や教材について考えたり、職員同士が話し合ったりすることが増え、それによって子どもに提供する素材の種類や数が増え、興味を持って素材に触れたり、素材と素材を組み合わせて作ってみようとする姿が見えてきた。同時に保育者が素材や教材の種類や特性を詳しく知る必要があり、それがわかると準備がスムーズになる	B	A		
		友達と一緒に遊ぶ中で、相手の気持ちに気付けるような関わり(声掛けなど)をしている	保育者に気持ちを受け止められ安心して過ごすことのできたため、友達の存在や友達が自分とは違う気持ちがあることに気付くことにつながった。また、遊びの経過や状況に合わせて保育者が声を掛けたり、双方の思いを受け止め言葉にしていくことで、子どもが自然と相手の思いに気付くことができるようになってきている。一方、状況によって子どもが友達を咄嗟に噛んだり、地団駄を踏んで思いを伝えようとする姿がある。子どもの発達や状態に応じての対応が引き続き必要とする	B	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標など)
1 こども園における 教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	「遊びのマップ」の内容を皆で共有し、0歳児から5歳児までの発達や興味・関心に合わせて遊びが用意されている	他学年の遊びを保育者全員で共有していき、子どもの発達や興味・関心について考えていくことが増えた。それが子どもの興味・関心について考えていくことにつながった。しかし、その為に作った『遊びマップ』が断続的な活用となっている。遊びのつながりが誰が見てもわかるように、継続して活用していくことが大切と思う	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方が負担にならないように続けていくための工夫をお願いしたい</li> </ul>	『遊びのマップ』の更新は、滞ることがないように、更新日を決め取り組んでいく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の育ちや生活リズムに合わせて安定した穏やかな気持ちで園生活が送れるようにスキンシップをとり、子どもの思いに寄り添っている	個々の生活リズムや実態に合わせて、睡眠や食事の時間を考慮することで子どもが安心して過ごしている。また、子どもの思いを受け止め、遊びの見取りを丁寧にしたことで、楽しそうに子どもが登園する姿が増えた。だが、早番、遅番からの伝達が時折スムーズにいかず、出席の確認や伝達事項等、担当が担当者にその都度確認する時間が必要な時もあった。そして、子どもが感じたこと、思ったことに保育者が継続的に寄り添えるように職員間で連携をとる姿が増えると、さらに継続的な寄り添いになっていく	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携をとりながら保育をしている様子がわかりやすい。課題と感じ、取り組み始めていることを続けて欲しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡事項の漏れがないように、打ち合わせと連絡事項が一体化したファイルに変更をしたことで、記入忘れ、確認忘れが若干少なくなってきた。引き続き一体化したファイルを使用する</li> <li>・子ども達の様子を職員間で語り合い、皆で見守ってけるように、まずはクラスでの『5分間トーク』を設けていく</li> </ul>
	(3)環境を通して行う教育及び保育	既成の玩具だけでなく、子どもの発想が広がるような、素材や教材が用意されている	ブロックやパズル等、教育時間での既成の玩具の扱いを見直した。それが子どもにとって身近な素材や教材に触れる機会が増えることにつながっていった。子どもが使う素材や教材についても提供するタイミングを考えたり、同僚と相談したりするきっかけにもなった。しかし、素材や教材を準備するために時間がかかり、『今必要』と思った時に提供が間に合わない時もあった。素材、教材を集める時には保護者に呼びかけてもいいのではないかと感じる	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリスマスのプレゼント等、子どもの日頃の様子から、思いを込めて選んだ経緯がプレゼントとともに添えられていて、保育の意図が分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者にも、子ども達がどんな遊びをしているかわかってもらう機会となる為、子どもが使用する自然物や廃材などを集める時には、保護者にも協力をお願いしていく</li> </ul>
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	計画的に災害・不審者訓練、交通安全指導が行われ、園児に対して安全行動が身につく指導が行われている	様々な想定で訓練行い省察をし、訓練内容を見直し実施した。災害状況に合わせてどのような避難行動が必要かを子どもと一緒に考えたことで、子ども自身が身を守る行動が身についてきた。そして、保育者目線だけでなく、子どもにも災害時や緊急時に何が困るかを聞き取り訓練を行っていくことも必要。また、保育者自身が緊急時に状況に合わせて瞬時に判断していく力が必要となる為、実践を始めたロールプレイングを繰り返していく	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の扶輪訓練が年に1～2回に対して、こども園は毎月行っている。それが子ども自身が身を守るための行動が身についていくことに繋がっていると思う。また、職員が非常時に瞬時に判断して避難行動をとるためのロールプレイングを行ったとのこと、継続してほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時の対応力をつけるために、シチュエーションごとのロールプレイングを引き続き行う</li> </ul>
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	子どもが食への関心を持てるように、季節の食材に触れられる取り組みを行っている	旬の食材に触れる体験を取り入れた食育活動を行うことで、子どもが食に対する興味を継続的に持っている。また、家庭に向けて発信するだけでなく、家庭に向けて食に関するクイズを出して答えをいただくなど、双方向のやりとりが少しずつできてくると、食育に対する意識がもっと高くなるのでは考える。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月発行される献立表に必ずコラムが入っていて、食材の栄養素を知ったり、レシピを真似て作ってみたいと感じる。イラスト入りでわかりやすいと思ってい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が見やすいように、食育コーナーの位置を玄関手前に移動する</li> <li>・定期的に食育便りを発行し、食に関するクイズなどを載せるなどしていく</li> </ul>
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の子どもの特性を理解し、支援方法を考え実践している	一人一人の支援に合った関りができるようにクラス内で話し合い実践ができた。また、ケース討議も始まり、園全体で支援方法を考える姿勢ができてきている。さらに、支援方法が保育者全員に周知できると、もっと園全体で支援ができてくると思う。その為に、会議に参加していない職員への報告機会を何回かに分けて持っていきたい	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立園なので、先生方の異動があるので、今まで同様に、一人一人の子ども達の引継ぎを丁寧をお願いしたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人に焦点を合わせたケース討議を月1回設けていく</li> </ul>
5 組織運営	(1)組織体制の充実	分掌が計画的に実行され、振り返りが行われている	2学期以降各分掌の振り返りを月1回行うことで滞りが減少し。実施内容の見通しが持つ計画的に実践できるようになってきた。一方、分掌リーダーに負担がかかっている一面もある為、各々が責任を持って取り組もうとする姿となるよう分担をし、リーダーに報告する状況となっていくようにしていきたい	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な係分掌があると思うが、忙しい保育の中で遂行している様子がわかる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌振り返りを引き続き月初めに行っていく。また分掌内でも分担をし、各々が責任を持って取り組んでいく</li> </ul>
6 研 修	(1)研修体制の充実	研修部を中心に園内研修を積み重ね、子どもが「もっとやりたい」と遊び出せるような場や関わりについて語り合いが行われている	研究保育、研究保育事前・事後研修を行い、その中で子どもの姿を深く見取る大切さを学び、保育の中で子どもを様々な視点から見る意識ができてきた。さらに、子どもの姿を深く見取っていく為に、研修内で保育者が子どもの姿を活発に語り合えるように、小グループや田の字方などを活用したい	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園だよりに研修の様子が写真入りで紹介されることがあり、子ども達のために先生方が努力している姿がわかる。先生数が多い園ではあるが、無理のない形で進めて欲しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の質の向上のために各クラス研究保育を行う</li> <li>・園内研修には全職員が参加できるように、現在のよう</li> </ul>
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもが安全に過ごせるように、日々の清掃・整理整頓がなされ、子どもが自ら物を取り出したたり片づけたりしやすい環境づくりを行っている	子どもが遊びに必要な物を自ら取り出すことを意識し、片付けしやすいように目印などを付けたた為、子どもが自ら取り出し、使ったものを片付ける姿が出てきている。また、子どもが安全に使用できるように発達に合わせた遊び道具を用意していくこともできた。しかし、まだまだ、遊び道具が散乱しているときもある為、物を大切に扱う意識を保育者、子どもともに持つことが大切と感じる	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達が色々な遊び道具を嬉しそうに取り出して使っている姿をよく見ます。片付けのためにマークもつけたりと工夫されていると思う。片づけると気持ちいいことが子どもがわかってくれるといい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにとって遊びに使うものが取り出しやすい環境となっているかを月1回職員で確認をしていく</li> <li>・職員自身も『気づいたら片づける』を意識していく</li> </ul>
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	玄関に「遊びのマップ」やドキュメンテーションを掲示し、園で過ごす子どもの様子を伝えている	幼児はクラスボード、乳児はスケッチブックに写真とコメントを添付し、子どもの様子をわかりやすく伝えることができています。だが、『遊びマップ』の更新が時折、滞ることがあった。定期的に更新する等対策していきたい	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真など、視覚的にわかる形での発信はとても分かりやすい、ICTの活用など、様々な発信方法を模索してもいいと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月終わりには更新する等、定期的に更新する日を設けて滞りをなくしていく</li> </ul>
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	公開保育や公開授業に参加し交流を図る	コロナ禍だが、職員が近隣園や学校へ参観している。今後は学校と相談しながら児童と園児の交流の在り方を探りたい	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児と児童の交流はすぐに実施できることではないが、次年度に向けて実施できそうと考えていることをきっかけに始めていくのはいいと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校児童との直接交流にこだわらず、小学校への園だより配付等できる事から始める。また、ICTの活用も検討していく</li> </ul>
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の方に教えて頂きながら、野菜づくりをする。	年長・中児が中心となるが借りている畑を活用している。近所の方に苗の植えつけ方を教えて頂いた抱く機会もあった。また、おしゃべりサロンは定期的に開催できており、地域の方に園について知って頂く機会となっている。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『地域』と考えると範囲が広がるので、現在も、行っている近所の方との交流を続け、少しずつ交流範囲を増やしていくといいと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜づくりについては引き続き行っていく。また、地域の方(囲碁教室の先生)に声を掛け伝承遊びなどを教えて頂く機会を設けていく</li> </ul>